



[掲載資料]写真：30620009994 消防想定訓練・北谷村営住宅(1974年)

沖縄戦で米軍の上陸地点となった北谷村は、戦火で生活基盤を失いました。終戦後は村全域が米軍占領地となり、人々は長く故郷に戻れませんでした。1946年（昭和21年）10月から徐々に居住区域が解放されましたが、平坦な土地の多くは軍用地として使われ、人々は起伏の多い山間や谷間に住むことになりました。

終戦から25年が経ち、日本復帰を控えた1970年（昭和45年）当時も村の約7割が軍用地で、住宅用地は非常に限られていました。そのため、住まいの確保が難しく、高い家賃で間借りする方も多くいました。この状況を改善するため、北谷村は1970年度から3か年計画で公営住宅を建設し、1972年（昭和47年）に第1号の「北谷村営栄口住宅」が完成しました。



写真を公文書館
検索システムで見る



公文書館
ホームページ

お問い合わせ 公文書館 ☎982-7739

公文書館では北谷に関する資料を収集しています。資料の種類や新旧に関わらず、ご寄贈や情報提供などのご協力をお願いします。